

目次

【2016年 聖書講筵レジュメ（配付資料等）】

2016年

2016年3月 復活節「公開講演会」資料（聖書の抜粋）

2016年3月27日（京都）

2016年5月 福音特別セミナーの主題と宿題

2016年5月14～15日（御殿場YMC A東山荘）

2016年7月 「しもべ聴く、主よ語り給え！」（キリスト道講演会）

2016年7月17日（東京新宿）

2016年7月 キリスト召団夏季福音特別集会のご案内

2016年7月（京都）

2016年12月 「聖書は人生の応援歌」 降誕節講演会

2016年12月18日（京都）



聖書の抜粋

2016年3月 復活節「公開講演会」資料

2016年3月27日（京都）

新約聖書（新共同訳）

1、ルカによる福音書

12章4～7節（恐るべき者）

「⁴友人であるあなたがたに言っておく。体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。⁵だれを恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っている方だ。そうだ。言っておくが、この方を恐れなさい。⁶五羽の雀が二アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。⁷それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」（ルカ12・4～7）

2、ヨハネによる福音書

(1) 1章1～5節

「¹初めに言が^{ことば}あつた。言は神と共にあつた。言は神であつた。²この言は、初めに神と共にあつた。³万物は言によつて成つた。成つたもので、言によらずに成つたものは何一つなかった。⁴言の内に命があつた。命は人間を照らす光であつた。⁵光は暗闇^{くらやみ}の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」

(ヨハネ1：1～5)

(2) 3章1～21節（イエスとニコデモ）

「¹さて、ファリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。ユダヤ人たちの議員であつた。²ある夜、イエスのもとに来て言つた。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行ふことはできないからです。」³イエスは答えて言われた。「はつきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」⁴ニコデモは言つた。「年をとった者が、どうして生まれることができますしやう。もう一度、母親の胎内に入つて生まれることができるでしょうか。」⁵イエスはお答えになつた。



「はつきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。⁶ 肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。⁷ 『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。⁸ 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。⁹ するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか」と言った。¹⁰ イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。¹¹ はつきり言っておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れない。¹² わたしが地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。¹³ 天から降って来た者、即ち人の子のほかには、天に上った者はだれもない。¹⁴ そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。¹⁵ それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。」

¹⁶ 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。¹⁷ 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。¹⁸ 御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。¹⁹ 光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。²⁰ 悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。²¹ しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかにするために。」（ヨハネ 3：1～21）

（3） 3章31～36節（天から来られる方）

「³¹ 上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地に属する者として語る。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。³² この方は、見たこと、聞いたことを証しされるが、だれもその証しを受け入れない。³³ その証しを受け入れる者は、神が真実であることを確認したことになる。³⁴ 神がお遣わしになった方は、神の言葉を話される。神が、『霊』を限りなくお与えになるからである。³⁵ 御父は御子を愛して、その手にすべてをゆだねられた。³⁶ 御子を信じる人は永遠の命を得ているが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上



にとどまる。」（ヨハネ3・31～36）

（4）5章19～40節（御子の権威）

「¹⁹そこで、イエスは彼らに言われた。「はっきり言っておく、子は、父のなさることを見なければ、自分からは何事もできない。父がなさることはなんでも、子もそのとおりにする。²⁰父は子を愛して、御自分のなさることをすべて子に示されるからである。また、これらのことよりも大きな業を子にお示しになって、あなたたちが驚くことになる。²¹すなわち、父が死者を復活させて命をお与えになるように、子も、与えたいと思う者に命を与える。²²また、父はだれをも裁かず、裁きは一切子に任せておられる。²³すべての人が、父を敬うように、子をも敬うようになるためである。子を敬わない者は、子をお遣わしになった父をも敬わない。²⁴はつきり言っておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命へと移っている。²⁵はつきり言っておく。死んだ者が神の子の声を聞くときが来る。今やその時である。その声を聞いた者は生きる。²⁶父は、御自身の内に命を持っておられるように、子にも自分の内に命を持つようにして下さったからである。²⁷また、裁きを行う権能を子にお与えになった。子は人の子だからである。²⁸驚いてはならない。時が来ると、墓の中にいる者は皆、人の子の声を聞き、²⁹善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁きを受けるために出てくるのだ。」

³⁰わたしは自分では何もできない。ただ、父から聞くままに裁く。わたしの裁きは正しい。わたしは自分の意志ではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行おうとするからである。」

（イエスについての証し）

「³¹もし、わたしが自分自身について証しをするなら、その証しは真実ではない。³²わたしについて証しをなさる方は別におられる。そして、その方がわたしについてなさる証しは真実であることを、わたしは知っている。³³あなたたちはヨハネのもとへ人を送ったが、彼は真理について証しをした。³⁴わたしは、人間による証しは受けない。しかし、あなたたちが救われるために、これらのことを言っておく。³⁵ヨハネは、燃えて輝くともし火であった。あなたたちは、しばらくの間、その光のもとで喜び楽しもうとした。³⁶しかし、わたしにはヨハネの証しにまさる証しがある。父がわたしに成し遂げるようにお与えになった業、つまり、わたしが行っている業そのものが、父がわたしをお遣わしになったことを証ししている。³⁷また、わたしをお遣わしにな



った父が、わたしについて証しをしてくださる。あなたたちは、まだ父の声を聞いたこともなければ、お姿を見たこともない。³⁸また、あなたたちは、自分の内に父のお言葉をとどめていない。父がお遣わしになった者を、あなたたちは信じないからである。³⁹あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。⁴⁰それなのに、あなたたちは、命を得るためにわたしのところへ来ようとしなない。」(ヨハネ5・19〜40)

(5) 6章26〜63節(イエスは命のパン)

「²⁶イエスは答えて言われた。「はつきり言っておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。²⁷朽ちる食べ物のためではなく、いつまでも無くならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。父である神が、人の子を認証されたからである。」²⁸そこで彼らが、「神の業を行うためには、何をしたらよいでしょうか」と言うと、²⁹イエスは答えて言われた。「神がお遣わしになった者を信じること、それが神の業である。」³⁰そこで、彼らは言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じることができるように、どんなしるしを行って下さいますか。どのようなことをしてくださいいますか。³¹私たちの先祖は、荒野でマンナを食べました。『天からのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。』³²すると、イエスは言われた。「はつきり言っておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる。³³神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである。」

³⁴そこで、彼らが、「主よ、そのパンをいつも私たちにください。」と言うと、³⁵イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもてに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。³⁶しかし、前にも言ったように。あなたがたはわたしを見てゐるのに、信じない。³⁷父が私にお与えになる人は皆、わたしのところへ来る。わたしのもてに来る人を、わたしは決して追い出さない。³⁸わたしが天から降ってきたのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。³⁹わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えて下さった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。⁴⁰わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。」

⁴¹ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降ってきたパンである」と



言われたので、イエスのことでつぶやき始め、⁴²こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降ってきた』などというのか。」⁴³イエスは答えて言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。⁴⁴わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのものに来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。⁴⁵預言者の書に『彼らは皆、神によって教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのものに来る。⁴⁶父を見た者は一人もない、神のもとから来た者だけが父を見たのである。⁴⁷はつきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。⁴⁸わたしは命のパンである。⁴⁹あなたたちの先祖は荒野でマンナを食べたが、死んでしまった。⁵⁰しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。⁵¹わたしは、天から降ってきた生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」

⁵²それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。⁵³イエスは言われた。「はつきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。⁵⁴わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を復活させる。⁵⁵わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。⁵⁶わたしの肉を食べ、わたしの血を飲むものは、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。⁵⁷生きておられる父が私をお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。⁵⁸これは天から降ってきたパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」⁵⁹これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたとき話されたことである。」

(永遠の命の言葉)

「⁶⁰ところで、弟子たちの多くの者はこれを聞いて言った。『実にひどい話だ。だが、こんな話を聞いていられようか。』⁶¹イエスは、弟子たちがこのことについてつぶやいているのに気づいて言われた。『あなたがたはこのことにつまずくのか。⁶²それでは、人の子がもいた所に上るのを見るならば……。』⁶³命を与えるのは『霊』である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は『霊』であり、命である。」(ヨハネ6・26〜63)

(6) 10章7〜18節(イエスは良い羊飼)



「⁷イエスはまた言われた。「はつきり言っておく。わたしは羊の門である。⁸わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。⁹わたしは門である。わたしを通して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。¹⁰盗人が来るのは、盗んだり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。¹¹わたしはよい羊飼いだ。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。¹²羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。——¹³彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。¹⁴わたしは良い羊飼いだ。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。¹⁵それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。¹⁶わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れとなる。¹⁷わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。¹⁸だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。」（ヨハネ10・7～18）

（7） 10章25～30節

「²⁵イエスは答えられた。「わたしは言ったが、あなたたちは信じない。わたしが父の名によって行う業が、わたしについて証しをしている。²⁶しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊でないからである。²⁷わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。²⁸わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。²⁹わたしの父が私に下さったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。³⁰わたしと父とは一つである。」（ヨハネ10・25～30）

（8） 11章17～26節（イエスは復活と命）

「¹⁷さて、イエスが行って御覧になると、ラザロは墓に葬られて既に四日もたっていた。¹⁸ベタニヤはエルサレムに近く、¹⁵スタディオンほどのところにあった。¹⁹マルタとマリアの所には、多くのユダヤ人が、兄弟ラザロのことで慰めに来ていた。²⁰マルタは、イエスが来られたと聞いて、迎えに行つたが、マリアは家の中に座っていた。²¹マルタはイエスに言った。「主よ、もしここ



にいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。²²しかし、あなたが神にお願いになることはなんでも神はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。」²³イエスが、「あなたの兄弟は復活する」と言われると、マルタは、「終わりの日の復活の時に復活することは存じております。」と言った。²⁵イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。²⁶生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」²⁷マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」（ヨハネ11・17～26）

（9）12章23～36節

「²³イエスはこうお答えになった。「人の子が栄光を受けるときが来た。²⁴はつきり言うておく。一粒の麦、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。²⁵自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。²⁶わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてください。」

（人の子は上げられる）

²⁷「今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください。』と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。²⁸父よ、御名の栄光を現してください。すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。』²⁹そばにいた群衆は、これを聞いて、「雷が鳴った」と言い、ほかの者たちは、「天使がこの人に話しかけたのだ」と言った。³⁰イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためだ。³¹今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。³²わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。』³³イエスは、ご自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。³⁴すると、群衆は言葉を返した。「わたしたちは律法によって、メシアは永遠にいつもおられると聞いていました。それなのに、人の子は上げられなければならない、とどうして言われるのですか。その『人の子』とはだれのことですか。』³⁵イエスは言われた。「光は、今しばらく、あなたがたの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわからない。³⁶光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい。」（ヨハ

ネ12・23～36)

(10) 17章1～3節

「イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。²あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができるのです。³永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」(ヨハネ17・1～3)

3、ローマの信徒への手紙

5章1～6章11節（信仰によって義とされて）

「このように、私達は信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、²このキリストの陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光に与る希望を誇りにしています。³そればかりではなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、⁴忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。⁵希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。⁶実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。⁷正しい人のために死ぬものはほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれませんが。⁸しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。⁹それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。¹⁰敵であつたときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。¹¹それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。」(ロマ5・1～11)

(アダムとキリスト)

「¹²このようなわけで、一人の死によって罪が世に入り、罪によって死が入りこんだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯した

からです。¹³ 律法が与えられる前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認められないわけです。¹⁴ しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違犯と同じような罪を犯さなかった人の上にさえ、死は支配しました。実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです。

¹⁵ しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりません。一人の罪によって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。¹⁶ この賜物は、罪を犯した一人によってもたらされたようなものではありません。裁きの場合は、一つの罪でも有罪の判決が下されますが、恵みが働くときには、いかに多くの罪があっても、無罪の判決が下されるからです。¹⁷ 一人の罪によって、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです。¹⁸ そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。¹⁹ 一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しいものとされるのです。²⁰ 律法が入り込んできたのは、罪が増し加わるためでありました。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。²¹ こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。」(ロマ5:12-21)

(罪は死に、キリストに生きる 6章)

「¹では、どういうことになるのか。恵みが増すようにと、罪の中にとどまらべきだろうか。² 決してそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができのでしょうか。³ それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。⁴ わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命にいきるためなのです。⁵ もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるとすれば、その復活の姿にあやかれるでしょう。⁶ わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。⁷ 死んだ者は、罪から解放されています。⁸ わた



したちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。⁹そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。¹⁰キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。¹¹このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。」（ロマ6・1～11）

4、コリントの信徒への手紙二

4章16～18節（信仰に生きる）

「¹⁶だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。¹⁷わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。¹⁸わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」（コリント二4・16～18）

5、ピリピの信徒への手紙

3章17節～21節

「¹⁷兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい。¹⁸何度も言ってきたし、今また涙ながらに言いますが、キリストの十字架に敵対して歩んでいる者が多いのです。¹⁹彼らの行き着く所は滅びです。彼らは腹を神とし、恥ずべきものを誇りとし、この世のことしか考えていません。²⁰しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。²¹キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。」（ピリピ3・17～21）

6、コロサイの信徒への手紙

3章1～4節

「¹さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。ここでは、キリストが神の右の座に着いておられます。²上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。

³あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。⁴あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。」(コロサイ³・1〜4)

7、ヘブライ人への手紙

13章8節

「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。」(ヘブライ13・8)

8、コリントの信徒への手紙一

13章(全)(愛)

「そこで、わたしはあなたがたに最高の道を教えます。

¹たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。²たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。³全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

⁴愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。⁵礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。⁶不義を喜ばずして、真実を喜ぶ。⁷すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

⁸愛は決して滅びない。預言は^{すた}廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう。⁹わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。¹⁰完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。¹¹幼子^{おさな}だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。¹²わたしたちは、今、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。わたしは、今、一部しか知らなくとも、そのときには、はつきり知られているようにはつきり知ることになる。¹³それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」(コリント一13・1〜13)

コリントの信徒への手紙一15章42〜58節

「⁴²死者の復活もこれと同じです。蒔^まかれるときは朽ちるものでも、朽ちな



いものに復活し、⁴³ 蔭かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蔭かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。⁴⁴ つまり、自然の命が体に蔭かれて、霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけです。⁴⁵ 「最初の人アダムは命のある生き物になった」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。⁴⁶ 最初に霊の体があったわけではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。⁴⁷ 最初の人土ででき、地に属する者であり、第2の人は天に属する者です。⁴⁸ 土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属する者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。⁴⁹ わたしたちは、土からできたその人に似姿となつてるように、天に属するその人の似姿にもなるのです。

⁵⁰ 兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。⁵¹ わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。⁵² 最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。⁵³ この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります。⁵⁴ この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。

「死は勝利にのみ込まれた。⁵⁵ 死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」

⁵⁶ 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。⁵⁷ わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに勝利を賜る神に、感謝しよう。⁵⁸ わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしつかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。」(コリント15・42～58)

以上



宿題

2016年5月 福音特別セミナーの主題と宿題

2016年5月14～15日(御殿場YMCA東山荘)

主題(課題)「神の護りと導き」

宿題

I 聖書の次の箇所を熟読してくること

旧約聖書

- 1 創世記 22章1～14
- 2 同上 28章10～22、32章9～12
- 3 出エジプト記 13章20～22
- 4 イザヤ書 30章15～21、43章1～7
46章3～4、49章8～16
- 5 詩篇 23篇、37篇23～25、46篇
91篇、103篇3～5、119篇105、130
121篇

新約聖書

- 1 マタイ伝 8章23～26
(マルコ伝4章35～40)
(ルカ伝 8章22～25)
- 2 マタイ伝 6章25～34
- 3 マタイ伝 10章28～31
(ルカ伝 12章4～7)
- 4 ピリピ書 4章4～7
- 5 ペテロ第一書 5章7

II 各人のこれまでの歩みにおいて、「神の護りと導き」に関わる体験や、祈りの課題があれば、それを文章(メモ書き)にして、一人3～5分程度で報告していただく(時間が許せばもつと長くてもよいが、参加者全員に等しく発表の機会をもつていただきたいので時間の制限を考慮する)。



キリスト道講演会レジュメ

2016年7月「しもべ聴く、主よ語り給え！」

2016年7月17日（東京新宿）

Ⅰ 講演の趣旨

旧約聖書サムエル記上3章に少年サムエルが主の呼びかけを聴く場面が記されている。その要点は以下のようである。

「¹少年サムエルはエリのもとで主に仕えていた。²ある日、エリは自分の部屋で床に就いていた。……³……サムエルは神の箱が安置された主の神殿に寝ていた。⁴主はサムエルを呼ばれた。サムエルは、『ここにいます』と答えて、⁵エリのもとに走って行き、『お呼びになったので参りました』と言った。しかし、エリが、『わたしは呼んでいない。戻っておやすみ』と言ったので、サムエルは戻って寝た。

⁶主は再びサムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、『お呼びになったので参りました』と言った。エリは、『わたしは呼んでいない。わが子よ、戻っておやすみ』と言った。⁷サムエルはまだ主を知らなかったし、主の言葉はまだ彼に示されていなかった。⁸主は三度サムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、『お呼びになったので参りました』と言った。エリは、少年を呼ばれたのは主であると悟り、⁹サムエルに言った。『戻って寝なさい。もしまた呼びかけられたら、「主よ、お話しください。僕は聞いております」と言いなさい。』サムエルは戻って元の場所に寝た。

¹⁰主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。『サムエルよ。』サムエルは答えた。『どうぞお話しください。僕は聞いております。』¹¹主はサムエルに言われた。『見よ、わたしは、イスラエルに一つのことを行う。それを聞く者は皆、両耳が鳴るだろう。¹²その日わたしは、エリの家に告げたことをすべて、初めから終わりまでエリに対して行う。¹³わたしはエリに告げ知らせた。息子たちが神を汚す行為をしていると知っていながら、とがめなかった罪のために、エリの家をとこしえに裁く、と。¹⁴わたしはエリの家について誓った。エリの家罪は、いけにえによっても献げ物によってもとこしえに贖われることはない。』

¹⁵サムエルは朝まで眠って、それから主の家の扉を開いた。サムエルはエリにこのお告げを伝えるのを恐れた。¹⁶エリはサムエルを呼んで言った。『わ



が子、サムエルよ。』サムエルは答えた。『ここにいます。』エリは言った。『お前に何が語られたのか。わたしに隠してはいけない。お前に語られた言葉を一つでも隠すなら、神が幾重いくえにもお前を罰してくださるように。』サムエルは一部始終を話し、隠し立てをしなかった。17エリは言った。『それを話されたのは主だ。主が御目になうとおりに行われるように。』……

19サムエルは成長していった。主は彼と共におられ、その言葉は一つたりとも地に落ちることはなかった。20ダンからベエル・シェバに至るまでのイスラエルのすべての人々は、サムエルが主の預言者として信頼するに足る人であることを認めた。21主は引き続きシロでご自身を現された。主は御言葉をもって、シロでサムエルにご自身を示された。

1サムエルの言葉は全イスラエルに及んだ。』(サムエル上3:1-4:1)

旧約聖書においては、神はアブラハムやモーセに対し、その名を呼んで親しく語りかけておられる。そのことに私は驚いた。新約聖書においてはどうかだろうか。また、現代に生きる我々は、どのようにして神の語りかけを、神の言葉を聞くことができるのだろうか。使徒パウロは、

「実に、信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことによつて始まるのです。」(ロマ10・17)

と言う。また、ヘブライ人への手紙の冒頭には、「神は、かつて預言者たちによつて、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によつてわたしたちに語られました。」と記されている。

II 神の語りかけ(御言葉)を聴く場 ——それは、十字架の下で——

聖なる神、そして霊なる神の前に、「肉なる人」がそのままのすがたで立つことはできない。ルカによる福音書18章13節の徴税人(取税人)が、

「遠くに立つて、目を天に上げようとせず、胸を打ちながら、『神様、つみびと罪人のわたしを憐れんでください。』と言った」(ルカ18・13)

ように、うなだれる外ないのが私たちの姿である。それでも、祈らないではいられない。神の御言葉を、神からの語りかけを待望せずにはおれない我々は、どうすればよいのか。我々が聖なる神の御前に出るとき心のすがた、姿勢は、「砕け」「平伏し」以外にはない。しかも、それは、「十字架の下」である。

最後の晩餐の席でペテロの足を洗われた主イエスは、

「わたしの足など、決して洗わないでください」

と辞退するペテロに対して、

「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもない



ことになる」（ヨハネ13・8）

と答えられた。

わたしたちと神（キリスト）との関わりの鍵はここにある。神（キリスト）の側から、わたしたちが恐れなく御前に出ることができるようにして下さった。十字架の贖罪の御血潮で既に「全身を」洗って下さった。「罪なき者」「私心なき者（無者）」としてくださった。

この自覚の下で、平伏しの心、砕けの心で、「しもべ聴く、主よ語り給え！」と呼びかけることができるのである。

語り給う次元は「天の次元」「霊の次元」である。したがって、聴く者もその次元において聴くのでなければならぬ。ヨハネによる福音書3章の「ニコデモとの対話」において語られたように、

「³……人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。……

⁵……だれでも水と霊とによつて生まれなければ、神の国に入ることはできない。⁶肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。」（ヨ

ハネ3・3～6）

この新しい誕生も、主イエスの十字架が与えてくださる。また、それ以外に道はない。「生まれながらの人間」の在り方を「肉」という。自己中心であつて、神よりも自分を大切にすること。自分に都合のよい限りで神に従う。神は、自分の幸福な人生に仕える「自分のしもべ」であつて、自分が「主」となっている。これと正反対の在り方がイエスの神に対する在り方であつた。主イエスは、父なる神に己を捧げ、御心の成就のみを願われた。その在り方こそが、「霊」なる在り方であつた。サマリヤの女に対して、

「神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもつて礼拝しなければならぬ。」（文語訳聖書では、「霊と真^{まこと}とをもつて」と訳されている。）

と語りかけておられるところにも表れている。

福音書の「種を蒔く人」のたとえ（マタイ13章、マルコ4章、ルカ8章）にある「良い土地」とは、「霊なる人」を指す。神の霊言は「霊なる人」に受け入れられて豊かな実を結ぶ。使徒パウロは「コリント信徒への手紙一」において、「神の霊による啓示」につき、次のように語っている。

「⁷わたしたちが語るのは、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられたものです。⁸この世の支配者たちはだれ一人、この知恵を理解しませんでした。もし理解していたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。⁹しかし、このことは、

『目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された』



と書いてあるとおりです。¹⁰わたしたちには、神が「霊」によってそのことを明らかに示してくださいました。「霊」は一切のことを、神の深みさえも究めます。¹¹人の内にある霊以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の霊以外に神のことを知る者はいません。¹²わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました。それでわたしたちは、神から恵みとして与えられたものを知ることになったのです。¹³そして、わたしたちがこれについて語るのも、人の知恵に教えられた言葉によるのではなく、「霊」に教えられた言葉によっています。つまり、霊的なものによって霊的なことを説明するのです。¹⁴自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊によって初めて判断できるからです。¹⁵霊の人は一切を判断しますが、その人自身はだれからも判断されたりしません。

¹⁶『だれが主の思いを知り、主を教えるというのか。』

しかし、わたしたちはキリストの思いを抱いています。』(コリント一2:7
16)

と。

III 語り手は主キリスト

ヘブライ人への手紙の初めに、

「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、²この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」(ヘブライ1:1-2)

とあるように、わたしたちにとって、神の言葉の語り手は、主イエス・キリストである。福音書に記されている主イエスの言葉と御業は、遠く離れた所での、遠い昔のものでありながら、現代に生きるわたしたちにとっても、「永遠の御言葉」としての輝きと重みをもつて迫ってくる。パウロの「コリント信徒への手紙二」3章6節に、

「文字は殺しますが、霊は生かします。」

(文語訳では、「儀文は殺し、霊は活かせばなり。」)(コリント二3:6)

とあるように、時代的・地理的制約を乗り越えた「霊的な奥義」を受けとるような姿勢が大切であることは言うまでもない。

主イエスは、いつも父なる神の懷に身を委ね、神と一如一体となり、その中から、「活ける霊の言葉」を語られた。ヨハネによる福音書12章44節以下を引用しよう。

「⁴⁴イエスは叫んで、こう言われた。「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなくて、わたしを遣わされた方を信じるのである。⁴⁵わたしを見る者は、



わたしを遣わされた方を見るのである。⁴⁶わたしを信じる者が、だれも暗闇の中にとどまることのないように、わたしは光として世に來た。⁴⁷わたしの言葉を聞いて、それを守らない者がいても、わたしはその者を裁かない。わたしは、世を裁くためではなく、世を救うために來たからである。⁴⁸わたしを拒み、わたしの言葉を受け入れない者に対しては、裁くものがある。わたしの語った言葉が、終わりの日にその者を裁く。⁴⁹なぜなら、わたしは自分勝手に語ったのではなく、

わたしをお遣わしになった父が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったからである。⁵⁰父の命令は永遠の命であることを、わたしは知っている。だから、わたしが語ることは、父がわたしに命じられたままを語っているのである。」（ヨハネ12・44～50）

IV 神（キリスト）の言葉は人を活かす。

わたしたちの肉体が飲食によって維持されるように、わたしたちの「霊の生命」は「神の口から出る一つ一つの言葉（霊言）」によって生きる。これなしには枯渇する。旧約聖書の中の「アモス書」に、

「見よ、その日が来ればと主なる神は言われる。わたしは大地に飢えを送る。それはパンに飢えることでもなく、水に渇くことでもなく、主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渇きだ。¹²人々は海から海へと巡り、北から東へとよるめき歩いて、主の言葉を探し求めるが、見いだすことはできない。

¹³その日には、美しいおとめも力強い若者も、渇きのために氣を失う。」（ア

モス8・11～13）

とある。

主イエスは、あの「荒野の試み」において、40日40夜断食した後、悪魔が来て、

「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」

と誘惑したのに対して、

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と書いてある。」

とお答えになって、悪魔の誘惑を断固として拒絶された。英文訳聖書では、

「人はパンだけで生きることができない。」

とある。霊の命にとって「神の口から出る霊言、命の言葉」がいかに大切かを教えている。

主イエスはヨハネ福音書の中で、

「命を与えるのは霊である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。」（ヨハネ6・63）



と宣言しておられる。

また、「良い羊飼いの」譬えにおいて、

「門番は羊飼いのには門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているの、ついて行く。しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。」（ヨハネ10・3～5）

と語っておられる。そして、さらに、

「¹⁰……わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。¹¹わたしは良い羊飼である。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。……¹⁸だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。」（ヨハネ10・10～18）

と。

V 御言葉を聴くことは、神・キリストの栄光のために身を献げて働くためである。

主イエスは、サマリヤの女と語り合っておられる間に町に出掛け食物を手に入れて戻って来た弟子たちが、「ラビ（先生）、食事をどうぞ」と勧めたのに対し、

「わたしにはあなたがたの知らない食べ物がある。わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。」

とお答えになった。

わたしたちも、神（キリスト）の御言葉を聴き、これを体受したならば、神・キリストの栄光が顕れるようにと願い、祈り心で、賜った使命（天職）・課題に取り組むべきである。

主イエスが山上で変貌される前に、御自身の受難と復活を弟子たちに告知されたときに語られた言葉…

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。」（マタイによる福音書16章24節～27節。マルコ8章34節～38節、ルカ9章23節～26節）



御言葉を聴いて行うことの大切さは、マタイ福音書7章21節に、

「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。」（マタイ7・21）とあり、同24～27節には、

「²⁴そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。²⁵雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。²⁶わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。²⁷雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」（マタイ7・24～27）

とある。

ルカ福音書6章46～49節では、次のように語られている。

「⁴⁶わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。⁴⁷わたしのもとに来て、わたしの言葉を聞き、それを行う人が皆どんな人に似ているかを示そう。⁴⁸それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。⁴⁹しかし、聞いても行わない者は、土台なしで地面に家を建てた人に似ている。川の水が押し寄せると、家はたちまち倒れ、その壊れ方がひどかった。」（ルカ6・46～49）

VI 新約聖書の使徒たちの言葉も、主キリストの御言葉に準じて受けとることができる。

パウロの「ローマの信徒への手紙」（ローマ書）、「コリント信徒への手紙一」「同二」、「ガラテヤの信徒への手紙」（ガラテヤ書）、「フィリピの信徒への手紙」（ピリピ書）、パウロの作品であるかどうかが争われているものの、内容の深い「エフェソの信徒への手紙」（エペソ書）、「コロサイの信徒への手紙」（コロサイ書）の内容も有益である。また、「使徒ヨハネの手紙一、二、三」も。「ペテロの手紙一、二」も大切な内容が記されている。

なお、忘れてならないことは、これらの御言葉に聴くに当たって、常に、「聖霊（御霊）」の導きを求めて、その御言葉、語りかけに聴く、という心根が大切である。

わたしは、ヨハネ福音書の14章から17章までの主イエスの御言葉に常に立ち返りたいと願っている。また、同じく大切なのは、パウロのローマ書8章の全部である。

この、いずれにおいても、導き給うのは、御霊の主、聖霊さまであることが強調されている。「ヨハネの手紙一」に

「あなたがたは聖なる方から油（聖霊のこと）を注がれているので、皆、真



理を知っています。」（ヨハネ一2・20）
とあり、また、

「いつもあなたがたの内には、御子から注がれた油がありますから、だれからも教えを受ける必要がありません。この油が万事について教えます。それは真実であって、偽りではありません。だから、教えられたとおり、御子の内にとどまりなさい。」（ヨハネ一2・27）

とある。

ローマ書8章においては、

「¹⁴神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。¹⁵あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によって、わたしたちは、『アッバ、父よ』と呼ぶのです。¹⁶この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒になつて証ししてくださいます。¹⁷もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。」（ロマ8・14～17）

と、輝かしい勝利を謳っている。

VII 各人で「御言葉集」を作成すること

これまでの人生の様々の体験や歩みの中で、支えとなった御言葉や聖書の箇所を抜き書きし、各人の「御言葉集」を作成すると良い。



ご案内

2016年7月 キリスト召団夏季福音特別集会のご案内

2016年7月 (京都)

2016年の夏季福音特別集会は8月26日(金)～28日(日)京都くに荘にて開催されます。今回の主題は「神の語りかけと御旨の成就」です。神は、人間の側で思い描いた神ではなく、ご自身の側から人間に語りかけ、働きかけ、御意(御旨)を示し、御業を成して行かれる能動的な神です。では、神の語りかけ、働きかけに対して、その受け手である人の側はどのように応答しているのでしょうか。

これを旧約聖書からは、創世記の中のアブラハムとヤコブ、出エジプト記の中のモーセにおいて学びたいと思います。

新約聖書では、イエス・キリストが神の現象体であり、この方の「言・行」が私たちに對する語りかけであり、私たちの中に御旨(愛)を成就しようとなさっています。

2泊3日で4回の講筵(8月26日夜の第1回集会、27日午前の第2回集会、27日夜の第4回集会、28日午前の第5回集会)においてお話していただけることは限られています。

そこで、参加される方々に「事前準備」として「課題(宿題)」を提示します。ぜひ、今から準備を始めていただきたいと切望いたします。それをして頂くことで、実りある特別集会となることを確信し、切に希望いたします。

【課題(宿題)】

聖書の次の箇所を読んでください。

旧約聖書から

1、アブラハムに関する箇所

創世記12・1～9、15・1～21、17章、22・1～19

2、ヤコブに関する箇所

創世記28・10～22、31・1～21、35・1～15、46・1～7

3、モーセに関する箇所

出エジプト記3章、4章、6・1～13、6・28～30、7章～14章、
15・22～27、16章、17・1～7、19章、20・1～21

新約聖書から

1、ルカ伝福音書 4章～24章

2、ヨハネ伝福音書 1章～17章



降誕節講演会レジュメ

2016年12月 「聖書は人生の応援歌」

2016年12月18日（京都）

I 聖書は旧約聖書39巻と新約聖書27巻の全66巻から成る。

旧約・新約の「約」とは、契約の「約」ということであり、神と人間との契約を意味している。旧約契約が「旧約」であり、新しい契約が「新約」である。聖書は、多くの著者たちによって書かれ、何世紀にもわたって編集されたものである。時代を異にし、著者も異なっているのに、聖書の各巻の背後には、統一された原理がある。その原理とは、神が長い歴史を通じて、人類の救いを計画し、この救いをキリストにおいて実現したところの、神の意志である。

旧約聖書には、イスラエル民族をとおして、神が人類に御自身を示そうとされた出来事が記されている。すなわち、神が天地の創造者であり、人類がその神の意志に従って生きる時に祝福がある、という約束である。イエスの誕生以前の、イスラエル民族と神のことがヘブル語で書かれている。しかし、エズラ書、ダニエル書、エレミヤ書の一部はアラム語である。

新約聖書の内容は次のようになる。イスラエル民族が、神を人類に示すという使命を、神から与えられたにもかかわらず、それに失敗した。そこで神は、イスラエルの中から救い主（キリスト）を誕生させ、彼を通して、全世界に神御自身を示して救いの道を開かれた。これが新しい契約である。イエスの誕生以後の、イエスと神のことが、ギリシャ語で書かれている。（以上は、『聖書辞典』新教出版社1968年による）

II 「人生の応援歌」としての聖書

聖書は、遠い異国の昔の物語であるか、堅苦しい教訓を記した書であって、我々には縁遠く、なじみ難い書であると考えがちですが、その内容は、特に新約聖書においては、現代に生きる私たちにとって、最も身近で、希望と勇気と力を与えてくれる「人生の応援歌」と呼ぶたいものが沢山含まれていることに驚きます。太陽が悠久の昔から地球を照らし続け、万物に光と熱とを与えて地球上の生命を育み護り続けてきたように、天界（神霊の次元）の根源なる存在者（神）から人類に賜ったプレゼントが「聖書」であり、その主人公は「旧約」では隠された霊的人格（キリスト）、「新約」ではイエスにおいて顕現した霊的人格キリストです。その「言」「行」は時と所を超えて人を活かして止まない永遠のものとして輝き続けています。



以下では、私がこれまでに「人生の応援歌」として励まされ、共感を覚えた箇所・聖句を旧約聖書から少しばかり、主としては新約聖書から拾い上げ、皆さまとともに味わいたいと思います。

III 旧約聖書の「イザヤ書」から

以下において、「ヤコブよ」とか、「イスラエルよ」と呼びかけられているのは、もちろん直接には、イスラエル民族への呼びかけであるが、同時に、神に愛され、神に従って生きようとする全ての人々に対する呼びかけとして、私に語りかけられている神の言葉として私は受けとっている。(なお、平かなで書かれている箇所を、漢字で表記したところもある)。

「²⁷ヤコブよ、何ゆえあなたは、「わが道は主に隠れている」と言うか。イスラエルよ、何ゆえあなたは、「わが訴えはわが神に顧みられない」と言うか。
²⁸あなたは知らなかったか、あなたは聞かなかったか。主はとこしえの神、地の果ての創造者であって、弱ることなく、また疲れることなく、その知恵ははかりがたい。

²⁹弱った者には力を与え、勢いのない者には強さを増し加えられる。

³⁰年若い者も弱り、かつ疲れ、壮年の者も疲れ果てて倒れる。

³¹しかし主を待ち望む者は新たな力を得、鷲のように翼を張って、のぼることが出来る。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」(イザヤ40・27～31)(口語訳)

「ヤコブよ、あなたを創造された主はこう言われる。イスラエルよ、あなたを造られた主はいまこう言われる、「恐れるな、わたしはあなたをあがなつた。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ。

²あなたが水の中を過ぎるとき、わたしはあなたと共にいる。川の中を過ぎるとき、水はあなたの上にあふれることがない。あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、炎もあなたに燃えつくことがない。

³わたしはあなたの神、主である、イスラエルの聖者、あなたの救主である。」(イザヤ43・1～3)

「ヤコブよ、わたしが選んだイスラエルよ、いま聞け。

²あなたを造り、あなたを胎内に形造り、あなたを助ける主はこう言われる、『わが僕ヤコブよ、わたしが選んだエシウルンよ、恐れるな。

³わたしは、乾いた地に水を注ぎ、干からびた地に流れを注ぎ、わが霊をあなたの子らに注ぎ、わが恵みをあなたの子孫に与えるからである。

⁴こうして、彼らは水の中の草のように、流れのほとりの柳のように、生え育つ。



⁵ある人は「わたしは主のものである」と言い、ある人はヤコブの名をもって自分を呼び、またある人は「主のものである」と手に記して、イスラエルの名をもって自分を呼ぶ」(イザヤ44・1～5)

「²¹ヤコブよ、イスラエルよ、これらの事を心にとめよ。あなたはわが僕だから。わたしはあなたを造った、あなたはわが僕だ。イスラエルよ、わたしはあなたを忘れない。」

²²わたしはあなたの咎を雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消した。わたしに立ち返れ、わたしはあなたをあがなったから。

²³天よ、歌え、主がこの事をなされたから。地の深き所よ、呼ばわれ。もろもろの山よ、林およびその中のもろもろの木よ、声を放って歌え、主はヤコブをあがない、イスラエルのうちに栄光を現されたから。」(イザヤ44・21～23)

「³ヤコブの家よ、イスラエルの家の残ったすべての者よ、生まれ出た時から、わたしに負われ、胎を出した時から、わたしに持ち運ばれた者よ、わたしに聞け。⁴わたしはあなたがたの年老いるまで変らず、白髪となるまで、あなたがたを持ち運ぶ。わたしは造ったゆえ、必ず負い、持ち運び、かつ救う。」(イザヤ46・3～4)

「⁶あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。」

⁷悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かなゆるしを与えられる。

⁸わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。

⁹天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。

¹⁰天から雨が降り、雪が落ちてまた帰らず、地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、種蒔く者に種を与え、食べる者に糧を与える。

¹¹このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果たす。

¹²あなたがたは喜びをもって出てきて、安らかに導かれて行く。」(イザヤ55・6～12)

「¹⁵いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖と唱えられる者がこう言われる、「わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりく

だる者と共に住み、へりくだる者の霊を活かし、砕けたる者の心を活かす。」（イザヤ57・15）

「²⁰主は言われる、「主は、あがなう者としてシオンに来たり、ヤコブの中の、咎を離れる者に至る」と。²¹主は言われる、「わたしが彼らと立てる契約これである。あなたの上にあるわが霊、あなたの口においたわが言葉は、今から後とこしえに、あなたの口から、あなたの子らの口から、あなたの子らの子の口から離れることはない」と。（イザヤ59・20～21）

「¹起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。

²見よ、暗きは地を覆い、闇はもろもろの民を覆う。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上に現れる。

³もろもろの国は、あなたの光に来、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに来る。」（イザヤ60・1～3）

IV 旧約聖書の「箴言」から

ダビデの子、イスラエルの王ソロモンの箴言。

これは人に知恵と教訓とを知らせ、悟りの言葉を悟らせ、賢い行いと、正義と公正と公平の教訓を受けさせ、思慮のない者に悟りを与え、若い者に知識と慎みを得させるためである。賢い者はこれを聞いて学に進み、さとい者は指導を得る。人はこれによつて箴言と譬えと、賢い者の言葉と、その謎とを悟る。（箴言1・1～6）

「主を畏れることは知識の初めである。」（箴言1・7）

第3章は、「箴言」のエッセンスのような内容であるので、ここに全文を掲げる。

「¹わが子よ、わたしの教えを忘れず、わたしの戒めを心に留めよ。

²そうすれば、これはあなたの日を長くし、命の年を延べ、あなたに平安を増し加える。

³慈しみとまこととを捨ててはならない。それをあなたの首に結び、心の碑にしるせ。

⁴そうすれば、あなたは神と人との前に恵みと誉れとを得る。

⁵心を尽くして主に信頼せよ、自分の知識に頼ってはならない。

⁶すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道を真っ直ぐにされる。

⁷自分を見て賢いと思つてはならない、主を畏れて、悪を離れよ。

⁸そうすれば、あなたの身を健やかにし、あなたの骨に元氣を与える。

⁹あなたの財産と、すべての産物の初なりをもつて主をあがめよ。

¹⁰そうすれば、あなたの倉は満ちて余り、あなたの酒ぶねは新しい酒で溢れる。



11 わが子よ、主の懲らしめを軽んじてはならない、その戒めをきらってはならない。

12 主は、愛する者を、戒められるからである。あたかも父がその愛する子を戒めるように。

13 知恵を求めて得る人、悟りを得る人は幸いである。

14 知恵によって得るものは、銀によって得るものにまさり、その利益は精金よりも良いからである。

15 知恵は宝石よりも尊く、あなたの望む何物も、これと比べるに足りない。

16 その右の手には長寿があり、左の手には富と誉れがある。

17 その道は楽しい道であり、その道筋はみな平安である。

18 知恵は、これを捕える者には命の木である、これをしっかりと捕える人は幸いである。

19 主は知恵をもって地の基を据え、悟りをもって天を定められた。

20 その知識によって海は湧き出で、雲は露を注ぐ。

21 わが子よ、確かな知恵と慎みとを守って、それをあなたの目から離してはならない。

22 それはあなたの魂の命となり、あなたの首の飾りとなる。

23 こうして、あなたは安らかに自分の道を行き、あなたの足はつまずくことがない。

24 あなたは座しているとき、恐れることはなく、臥すとき、あなたの眠りは心地よい。

25 あなたはにわかにかかる恐慌を恐れることなく、悪しき者の滅びが来ても、それを恐れることはない。

26 これは、主があなたの信頼する者であり、あなたの足を守って、わなに捕われさせられないからである。

27 あなたの手に善をなす力があるならば、これをなすべき人になすことを差し控えてはならない。

28 あなたが物を持っている時、その隣り人に向かい、「去って、また来なさい。明日、それをあげよう」と言ってはならない。

29 あなたの隣り人が傍らに安らかに住んでいる時、これに向かつて、悪を計ってはならない。

30 もし人があなたに悪を行ったのでなければ、ゆえなく、これと争ってはならない。

31 暴虐な人を、羨んではならない。そのすべての道を選んではいならない。



32 よこしまな者は主に憎まれるからである。しかし、正しい者は主に信任される。

33 主の、呪いは悪しき者の家にある。しかし、正しい人の住まいは主に恵まれる。

34 彼はあざける者をあざけり、へりくだる者に恵みを与えられる。

35 知恵ある者は、誉れを得る、しかし、愚かな者は辱めを得る。」(箴言3・1～35)

箴言14章からの抜粋(12～35節)

「12 人が見て自ら正しいとする道でも、その終りは遂に死に至る道となるものがある。

13 笑う時にも心に悲しみがあり、喜びの果てに憂いがある。

14 心のもとれる者はその仕業の実を刈り取り、善良な人もまたその行いの実を刈り取る。

15 思慮のない者はすべてのことを信じる、^{さと}聡き者は自分の歩みを慎む。

16 知恵ある者は用心深く、悪を離れる、愚かな者は高ぶって用心しない。

17 怒り易い^{やす}者は愚かなことを行い、賢い者は忍耐強い。

18 思慮のない者は愚かなことを自分のものとする、^{さと}聡き者は知識をもって冠とする。

19 悪人は善人の前にひれ伏し、悪しき者は正しい者の門にひれ伏す。

20 貧しい者はその隣にさえも憎まれる、しかし富める者は多くの友を持つ。

21 隣り人を卑しめる者は罪びとである、貧しい人を憐れむ者は幸いである。

22 悪を計る者は己を誤るではないか、善を計る者には慈しみと、まことがある。

23 すべての勤労には利益がある、しかし口先だけの言葉は貧乏を来らせるだけだ。

24 知恵ある者の冠はその知恵である、愚かな者の花の冠はただ愚かさである、

25 まことの証人は人の命を救う、偽りを吐く者は裏切者である、

26 主を畏れることによって人は安心を得、その子らは逃れ場を得る。

27 主を畏れることは命の泉である、人を死の畏から逃れさせる。

28 王の栄えは民の多いことにあり、君の滅びは民を失うことにある。

29 怒りを遅くする者は大いなる悟りがあり、気の短い者は愚かさを現す。

30 穏やかな心は身の命である、しかし興奮は骨を腐らせる。

31 貧しい者を^{しいた}虐げる者はその造り主を^{あなど}侮る、乏しい者を^{あわれ}憐れむ者は、主を敬う。



32 悪しき者はその悪しき行いによって滅ぼされ、正しい者はその正しきによって、その逃れ場を得る。

33 知恵は聡き者の心にとどまり、愚かな者の心に知られない。

34 正義は国を高くし、罪は民を辱める。^{はずかし}

35 賢い僕は王の恵みを受け、恥を来たらす者はその怒りに会う。」(箴言14・12～35)

15章以下にも興味深い言葉が記されているので、抜き出してみよう。

「正しい者の家には多くの宝がある、悪しき者の所得には煩いがある。」(箴言15・6)

「心に楽しみがあれば顔色も喜ばしい、心に憂いがあれば気はふさぐ。」(箴言15・13)

「15 悩んでいる者の日々はことごとく辛く、心の楽しい人は常に宴会をもつ。

16 少しの物を所有して主を畏れるのは、多くの宝を持って苦勞するのにまさる。」

17 野菜を食べて互に愛するのは、肥えた牛を食べて互に憎むのにまさる。」(箴言15・15～17)

「1 心に計ることは人に属し、舌の答えは主から出る。

2 人の道は自分の目にことごとく潔と見える、しかし主は人の魂をはかられる。」

3 あなたのならすべき事を主に委ねよ、そうすれば、あなたの計るところは必ず成る。」(箴言16・1～3)

「7 人の道が主を喜ばせる時、主はその人の敵をもその人と和らがせられる。

8 正義によって得た僅かなものは、不義によって得た多くの宝にまさる。人は心に自分の道を考え計る。

9 しかし、その歩みを導く者は主である。」(箴言16・7～9)

「31 白髪は栄の冠である、正しく生きることによってそれが得られる。

32 怒りを遅くする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。」(箴言16・31～32)

「平穏であって、ひとかたまりの乾いたパンのあるのは、争いがあって、食物の豊かな家にまさる。」(箴言17・1)

「孫は老人の冠である、父は子の栄えである。」(箴言17・6)

「27 言葉を少なくする者は知識のある者、心の冷静な人は聡き人である。

28 愚かな者も黙っているときは、知恵ある者と思われ、その唇を閉じている



時は、聡き者と思われる。」(箴言17・27～28)

V 旧約聖書の「詩篇」から

「詩篇」は讃美の書であり、また、祈りの書です。そこに現れた苦しみの多くは、外敵によるものであったり、ダビデの詩においては、身内に追われて危機にひんしている中からの祈り、心の嘆きと叫びといったものが多くみられます。悩みの内容や外的環境は私たちとは異なりますが、人間としての悩みや叫び、祈りの心には共感するところが多いように思われ、私にとって、祈りへの導きの書になっています。以下に、幾つかを拾い上げることと致します。

第1篇

「悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座に座らぬ人は幸いである。」

2 このような人は主のおきてを喜び、昼も夜もそのおきてを思う。

3 このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしばまないように、その為すところは皆栄える。」(詩篇1・1～3)

第8篇

「主よ、われらの主よ、あなたの名は地にあまねく、いかに尊いことでしょう。あなたの栄光は天の上にあり、

2 みどりごと乳飲み子との口によって、ほめたたえられています。あなたは敵と恨みを晴らす者とを静めるため、あだに備えて砦とりでを設けられました。

3 わたしは、あなたの指の業なる天を見、あなたが設けられた月と星とを見て思います。

4 人は何者なので、これを御心に留められるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。

5 ただ少しく人を神よりも低く造って、栄えと誉れことうむとを被らせ、

6 これに御手みての業を治めさせ、よろずの物をその足の下に置かれました。

7 すべての羊と牛、また野の獣、

8 空の鳥と海の魚、海路を通うものまでも。

9 主よ、われらの主よ、あなたの名は地にあまねく、いかに尊いことでしょう。」

(詩篇8・1～9)

第19篇

「もろもろの天は神の栄光を現し、大空は御手の業を示す。

2 この日は言葉をかの日に伝え、この夜は知識をかの夜に告げる。

3 話すことなく、語ることなく、その声も聞こえないのに、



4 その響きは全地にあまねく、その言葉は世界の果てにまで及ぶ。神は日のために幕屋を天に設けられた。

5 日は花婿がその祝の部屋から出てくるように、また勇士が競い走るように、その道を喜び走る。

6 それは天の果てから昇って、天の果てにまで、巡って行く。その暖まりを被らないものはない。

7 主のおきては完全であって、魂を生き返らせ、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。

8 主の論^{さと}は正しくて、心を喜ばせ、主の戒めは混じりなくて、眼を明らかにする。

9 主を畏^{おそ}れる道は清らかで、とこしえに絶えることがなく、主の裁きは真実であってことごとく正しい。

10 これらは金よりも、多くの純金よりも慕わしく、また蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い。

11 あなたの僕は、これらによって戒めを受ける。これらを守れば、大いなる報いがある。

12 だが自分の過ちを知ることができましようか。どうか、わたしを隠れた咎から解き放ってください。

13 また、あなたの僕を引き止めて、故意の罪を犯させず、これに支配されることのないようにしてください。そうすれば、わたしは過^{あやま}ちのない者となって、大いなる咎^{とが}を免^{まぬ}れることが出来るでしょう。

14 わが岩、わが贖い主なる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いが、あなたの前に喜ばれますように。」(詩篇19・1〜14)

第23篇

「1 主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。

2 主はわたしを緑の牧場に伏させ、憩いのみぎわに伴われる。

3 主はわたしの魂を生き返らせ、御名のためにわたしを正しい道に導かれる。

4 たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、災いを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。あなたの鞭とあなたの杖はわたしを慰めます。

5 あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしの首に油を注がれる。わたしの杯は溢れます。

6 わたしの生きている限りは必ず恵みと慈しみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。」(詩篇23・1〜6)

第34篇(抜粋)



「¹わたしは常に主を誉めまつる。その讚美はわたしの口に絶えない。……
⁴わたしが主に求めたとき、主はわたしに答え、すべての恐れからわたしを助け出された。……

⁶この苦しむ者が呼ばわったとき、主は聞いて、すべての悩みから救い出された。

⁷主の使いは主を畏れる者の周りに陣を敷いて彼らを助けられる。

⁸主の恵み深いことを味わい知れ、主に寄り頼む人は幸いである。

⁹主の聖徒よ、主を畏れよ、主を畏れる者には乏しいことがないからである。

¹⁰若き獅子は乏しくなって飢えることがある。しかし主を求める者は良き物に欠けることはない。……

¹⁵主の目は正しい人を顧み、その耳は彼らの叫びに傾く。……

¹⁷正しい者が助けを叫び求めるとき、主は聞いて、彼らをその全ての悩みから助け出される。……

¹⁸主は心の碎けた者に近く、魂の悔いぐずおれた者を救われる。

¹⁹正しい者には災いが多い。しかし、主は全てその中から彼を助け出される。

²⁰主は彼の骨をことごとく守られる。その一つだに折られることはない。……

²²主はその僕らの命を贖われる。主に寄り頼む者は一人だに罪に定められることはない。」(詩篇34・1～22)

第37篇(抜粋)

「²³人の歩みは主によって定められる。主はその行く道を喜ばれる。

²⁴たといその人が倒れても全く打ち伏せられることはない、主がその手を助け支えられるからである。

²⁵わたしは、むかし年若かった時も、年老いた今も、正しい人が捨てられ、あるいはその子孫が食物を請い歩くのを見たことがない。

²⁶正しい人は常に寛大で、物を貸し与え、その子孫は祝福を得る。

²⁷悪を避けて、善を行え。そうすれば、あなたはとこしえに住むことが出来る。

²⁸主は公義を愛し、その聖徒を見捨てられないからである。正しい者はとこしえに助け守られる。」(詩篇37・23～28)

第46篇

「¹神はわれらの避け所、また力である。悩める時のいと近き助けである。

²このゆえに、たとい地は変り、山は海の真中に移るとも、われらは恐れない。

³たといその水は鳴りとどろき、泡立つとも、その騒ぎによって山は震え動くとも、われらは恐れない。

⁴一つの川がある。その流れは神の都を喜ばせ、いと高き者の聖なる住まい

を喜ばせる。

5 神がその中におられるので、都はゆるがない。神は朝早く、これを助けられる。

6 もろもろの民は騒ぎ立ち、もろもろの国は揺れ動く、神がその声を出されると地は熔ける。

7 万軍の主はわれらと共におられる、ヤコブの神はわれらの避け所である。

8 来て、主の御業を見よ、主は驚くべき事を地に行われた。

9 主は地の果てまでも戦いを止めさせ、弓を折り、槍を断ち、戦車を火で焼かれる。

10 「静まって、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろの国民のうちにあがめられ、全地にあがめられる」。

11 万軍の主はわれらと共におられる、ヤコブの神はわれらの避け所である。」(詩篇46・1～11)

第62篇(抜粋)

「1 わが魂はもだしてただ神を待つ。わが救いは神から来る。

2 神こそわが岩、わが救い、わが高き櫓である。わたしはいたく動かされることはない。……

7 わが救いとわが誉れとは神にある。神はわが力の岩、わが避け所である。

8 民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。その御前にあなたがたの心を注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。

9 低い人は空しく、高い人は偽りである。彼らを秤に置けば、彼らは共に息よりも軽い。

10 あなたがたは、虐げに頼ってはならない。かすめ奪うことに、空しい望みを置いてはならない。富の増し加わるとき、これに心をかけてはならない。

11 神はひとたび言われた、わたしは再びこれを聞いた、力は神に属することを。

12 主よ、慈しみもまた、あなたに属することを。あなたは人各々の業に従って報いられるからである。」(詩篇62・1～12)

第103篇

「1 わが魂よ、主を誉めよ。わがうちなる全てのものよ、その聖なる御名を誉めよ。

2 わが魂よ、主を誉めよ。その全ての恵みを心に留めよ。

3 主はあなたの全ての不義を赦し、あなたの全ての病を癒し、

4 あなたの命を墓から贖い出だし、慈しみと憐れみとをあなたに被らせ、

5 あなたの生きながらえる限り、良き物をもってあなたを飽き足らせられる。



VI

新約聖書の三つの福音書（マタイ、マルコ、ルカ伝福音書）から

こうしてあなたは若返って、鷲のように新たになる。

6 主は全て虐げられる者のために正義と公正とを行われる。

7 主は己の道をモーセに知らせ、己の仕業をイスラエルの人々に知らせられた。

8 主は憐れみに富み、恵み深く、怒ること遅く、慈しみ豊かでいらせられる。

9 主は常に責めることをせず、また、とこしえに怒りを抱かれない。

10 主はわれらの罪にしたがってわれらをあしらわず、われらの不義に従って報いられない。

11 天が地よりも高いように、主が己を畏れる者に賜わる慈しみは大きい。

12 東が西から遠いように、主はわれらの咎をわれらから遠ざけられる。

13 父がその子供を憐れむように、主は己を畏れる者を憐れまれる。

14 主はわれらの造られたさまを知り、われらの塵であることを覚えていられるからである。

15 人は、その齢は草のごとく、その栄えは野の花にひとしい。

16 風がその上を過ぎると、失せて跡なく、その場所に聞いても、もはやそれを知らない。

17 しかし、主の慈しみは、とこしえからとこしえまで、主を畏れる者の上にあり、その義は子らの子に及び、

18 その契約を守り、その命令を心に留めて行う者にまで及ぶ。

19 主は、その玉座を天に堅く据えられ、そのまつりごとは全ての物を統^すべ治める。

20 主の使たちよ、その御言葉の声を聞いて、これを行う勇士たちよ、主を誉めまつれ。

21 その全ての万軍よ、その御心を行う僕たちよ、主を誉めよ。

22 主が造られた全ての物よ、そのまつりごとのある全ての所で、主を誉めよ。わが魂よ、主を誉めよ。」（詩篇103・1・22）

「²⁵それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようか、何を飲もうかと自分の命のことで思い煩い、何を着ようかと自分のからだのことで思い煩うな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。²⁶空の鳥を見るがよい。播くことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、遥かに優れた者ではないか。²⁷あなたがたのうち、誰が思い煩った



からとて、自分の寿命を僅かでも延ばすことができようか。²⁸また、なぜ、着物のことで思い煩うのか。野の花がどうして育っているか、考えてみるがよい。働きもせず、紡ぎもしない。²⁹しかし、あなたがたに言うが、榮華を極めた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。³⁰今日は生えていて、明日は炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上良くして下さらないはずがあるうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。³¹だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思い煩うな。³²これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要なことをご存知である。³³まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。³⁴だから、明日のことを思い煩うな。明日のことは、明日自身が思い煩うであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。」(マタイ 6・25～34)

「⁹さてイエスはそこから進んで行かれ、マタイという人が収税所に座っているのを見て、「わたしに従って来なさい」と言われた。すると彼は立ちあがって、イエスに従った。¹⁰それから、イエスが食事の席に着いておられた時のことである。多くの収税人や罪人^{つみびと}たちが来て、イエスや弟子たちと共にその席に着いていた。¹¹パリサイ人たちはこれを見て、弟子たちに言った、「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人などと食事を共にするのか」。¹²イエスはこれを聞いて言われた、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。¹³『わたしが好むのは、憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、学んできなさい。わたしが来たのは義人を招くためではなく、罪人を招くためである。」(マタイ 9・9～13) (マルコ 2・13～17)

文語訳聖書では、

「¹²……健かなる者は医者を要せず、ただ病める者これを要す。¹³なんじら往きて学べ『われ憐憫を好みて、犠牲^{いけにえ}を好まず』とは如何なる意ぞ。我は正しき者を招かんとあらで、罪人を招かんとて来れり」(マタイ 9・12～13)

「²⁸すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもて来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしの軛^{くみ}を負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11・28～30)



ルカによる福音書から

「その間に、おびただしい群衆が、互に踏み合うほどに群がつてきたが、イエスはまず弟子たちに語り始められた、「パリサイ人のパン種、すなわち偽善に気をつけなさい。²覆いかぶされたもので、現れてこないものはなく、隠れているもので、知られてこないものはない。³だから、あなたがたが暗闇で言ったことは、なんでもみな明るみで聞かれ、密室で耳にささやいたことは、屋根の上で言い広められるであろう。⁴そこでわたしの友であるあなたがたに言うが、からだを殺しても、その後でそれ以上何も出来ない者どもを恐れるな。⁵恐るべき者が誰であるか、教えてあげよう。殺した後で、更に地獄に投げ込む権威のある方を恐れなさい。そうだ、あなたがたに言うておくが、その方を恐れなさい。⁶五羽の雀は二アサリオンで売られているではないか。しかも、その一羽も神の御前で忘れられてはいない。⁷その上、あなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。恐れることはない。あなたがたは多くの雀よりも勝った者である。⁸そこで、あなたがたに言う。誰でも人の前でわたしを受け入れる者を、人の子(イエスのこと)も神の使いたちの前で受け入れるであろう。⁹しかし、人の前でわたしを拒む者は、神の使いたちの前で拒まれるであろう。¹⁰また、人の子に言い逆らう者はゆるさるであろうが、聖霊をけがす者は、ゆるされることはない。¹¹あなたがたが会堂や役人や高官の前へ引つ張られて行った場合には、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配しないがよい。¹²言うべき事は、聖霊がその時に教えて下さるからである。」(ルカ12・1-12)

「¹³群衆の中の一人がイエスに言った、「先生、わたしの兄弟に、遺産を分けてくれるようにおっしゃって下さい」。¹⁴彼に言われた、「人よ、誰がわたしをあなたがたの裁判人または分配人に立てたのか」。¹⁵それから人々に向かつて言われた、「あらゆる貪欲に対してよくよく警戒しなさい。たとい沢山の物を持っていても、人の命は、持ち物にはよらないのである」。¹⁶そこで一つの譬えを語られた、「ある金持の畑が豊作であった。¹⁷そこで彼は心の中で、『どうしようか、わたしの作物をしまっておく所がないのだが』と思いつめぐらして¹⁸言った、『こうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっと大きいのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しまい込もう。¹⁹そして自分の魂に言おう。魂よ、お前には長年分の食糧が沢山貯えてある。さあ安心せよ、食べ、飲め、楽しめ』。²⁰すると神が彼に言われた、『愚か者よ、あなたの魂は今夜のうちにでも取り去られるであろう。そうしたら、あなたが用意した物は、誰のものになるのか』。²¹自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」。(ル



カ12・13(21)

VII 新約聖書の「ヨハネによる福音書」から

「¹⁶神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。¹⁷神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によってこの世が救われるためである。¹⁸彼を信じる者は裁かれない。信じない者は、既に裁かれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。¹⁹その裁きというのは、光がこの世に來たのに、人々が行いが悪いために、光よりも闇の方を愛したことである。²⁰悪を行っている者は皆、光を憎む。そして、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光に來ようとはしない。²¹しかし、真理を行っている者は光に來る。その人の行いの、神にあつてなされたということが、明らかにされるためである。」(ヨハネ3・16～21)

「¹²イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従つて來る者は、闇のうちを歩くことがなく、命の光を持つであらう。」(ヨハネ8・12)

「³⁵そこでイエスは彼らに言われた、「もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、闇においつかれないようにしなさい。闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか分かっていない。³⁶光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい。」(ヨハネ12・35～36)

第14章から第16章までは、「訣別遺訓」と言われている。重厚な内容のものである。全文を引用したいが、紙数の関係から、抜粋にとどめる。

「¹あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。²わたしの父の家には、住まいが沢山ある。もしなかったならば、わたしはそう言うておいたであらう。あなたがたのために場所を用意しに行くのだから。³そして、行つて場所の用意が出來たならば、また來て、あなたがたをわたしの所に迎えよう。わたしのおるところに、あなたがたも居らせるためである。……⁸ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さいれば、わたしたちは満足します」。⁹イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長く一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示して欲しいと、言うのか。¹⁰わたしが父におり、父がわたしに居られることを、あなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、



自分から話しているのではない。父がわたしのうちに居られて、御業をなさっているのである。¹¹わたしが父に居り、父がわたしに居られることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、業そのものによって信じなさい。¹²よくよくあなたがたに言っておく。わたしを信じる者は、また、わたしのしている業をするであろう。そればかりか、もっと大きい業をするであろう。わたしが父の御許に行くからである。¹³わたしの名によって願うことは、なんでも叶えてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。¹⁴何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれを叶えてあげよう。¹⁵もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしの戒めを守るべきである。¹⁶わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。¹⁷それは真理の御霊である。この世は、それを見ようとせず、知ろうともしないので、それを受けることが出来ない。あなたがたは、それを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共に居り、またあなたがたの中に居るからである。

¹⁸わたしは、あなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。¹⁹もうしばらくしたら、世はわたしを見なくなるだろう。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きるので、あなたがたも生きるからである。²⁰その日には、わたしはわたしの父に居り、あなたがたは、わたしに居り、また、わたしがあなたがたに居ることがわかるであろう。²¹わたしの戒めを心に抱いてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身を現すであろう」。(ヨハネ14・1～21)

「⁵わたしは葡萄の樹、あなたがたはその枝である。もし人がわたしに繋がっており、また、わたしがその人と繋がっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つ出来ないからである。……⁷あなたがたがわたしに繋がっており、わたしの言葉があなたがたに留まっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。⁸あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。⁹父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちに居なさい。¹⁰もしわたしの戒めを守るならば、あなたがたは、わたしの愛の中に居るのである。それは、わたしが父の戒めを守ったので、その愛の中に居ると同じである。¹¹わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びが、あなたがたの中にも宿るため、また、あなたがたの喜びが満

ちあふれるためである。

¹²わたしの戒めはこれである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。¹³人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きい愛はない。¹⁴あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。¹⁵わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしは、あなたがたを友と呼んだ。わたしが父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。¹⁶あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実を結び、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。¹⁷これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。」(ヨハネ15・5～17)

VIII パウロの手紙から

「『今やキリスト・イエスに在る者は罪に定められることがない。²なぜなら、キリスト・イエスに在る命の御霊の法則は、罪と死との法則から あなたを解放したからである。』(ロマ8・1～2)

「²⁶……わたしたちは、どう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉に現せない切なる呻きをもって、わたしたちのために執り成して下さるからである。……²⁸神は、神を愛する者たち、即ち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」(ロマ8・26～28)

「⁴あなたがたは、主に在っていつも喜びなさい。⁵あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。⁶何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとを捧げ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。⁷そうすれば、人知ではとうてい測り知ることの出来ない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあつて守るであらう。」(ピリピ4・4～7)

